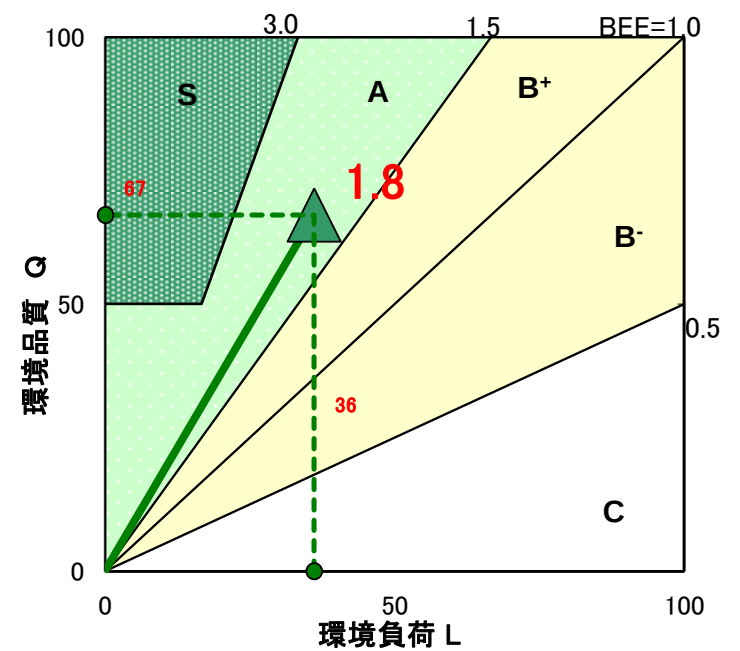


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	NHK新熊本放送会館	階数	地上4F、地下1F	
建設地	熊本県熊本市中央区花畑町5番1,2	構造	S造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	150 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,000 時間/年	
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2016年10月 予定	評価の実施日	2015年1月16日	
敷地面積	2,646 m ²	作成者	谷田 要介	
建築面積	1,616 m ²	確認日	2015年2月4日	
延床面積	6,401 m ²	確認者	笠木 修	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		BEE = 1.8		■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$																																	
		■環境効率評価基準																																			
		<table><tr><th rowspan="2">ランク</th><th rowspan="2">ランク表示</th><th rowspan="2">評価</th><th colspan="2">判定値</th></tr><tr><th>BEE値</th><th>Q値</th></tr><tr><td>S</td><td>★★★★★</td><td>素晴らしい</td><td>3.0以上</td><td>50以上</td></tr><tr><td>A</td><td>★★★★</td><td>大変良い</td><td>1.5以上3.0未満</td><td>—</td></tr><tr><td>B+</td><td>★★★</td><td>良い</td><td>1.0以上1.5未満</td><td>—</td></tr><tr><td>B-</td><td>★★</td><td>やや劣る</td><td>0.5以上1.0未満</td><td>—</td></tr><tr><td>C</td><td>★</td><td>劣る</td><td>0.5未満</td><td>—</td></tr></table>		ランク	ランク表示	評価	判定値		BEE値	Q値	S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上	A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—	B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—	B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—	C	★	劣る	0.5未満	—		
ランク	ランク表示	評価	判定値																																		
			BEE値	Q値																																	
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上																																	
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—																																	
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—																																	
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—																																	
C	★	劣る	0.5未満	—																																	
■ ライフサイクルCO ₂ 排出性能(ランク表示)		排出率		■ライフサイクルCO ₂ 排出性能評価基準																																	
		100%		<table><tr><th>判定値(排出率)</th><th>ランク表示</th></tr><tr><td>30%以下</td><td>☆☆☆☆☆</td></tr><tr><td>30%超60%以下</td><td>☆☆☆☆</td></tr><tr><td>60%超80%以下</td><td>☆☆☆</td></tr><tr><td>80%超100%以下</td><td>☆☆</td></tr><tr><td>100%超</td><td>☆</td></tr></table>		判定値(排出率)	ランク表示	30%以下	☆☆☆☆☆	30%超60%以下	☆☆☆☆	60%超80%以下	☆☆☆	80%超100%以下	☆☆	100%超	☆																				
判定値(排出率)	ランク表示																																				
30%以下	☆☆☆☆☆																																				
30%超60%以下	☆☆☆☆																																				
60%超80%以下	☆☆☆																																				
80%超100%以下	☆☆																																				
100%超	☆																																				

2 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価			評価点
			90
	評価点	■熊本県重点評価基準	
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	91.2	判定値(評価点)	ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	72.5	100点以上	
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	102.5	80点以上100点未満	
【重点事項4】 循環型社会の実現	94.5	60点以上80点未満	
		40点以上60点未満	
		40点未満	
※評価点は、100点以上が推奨です。			

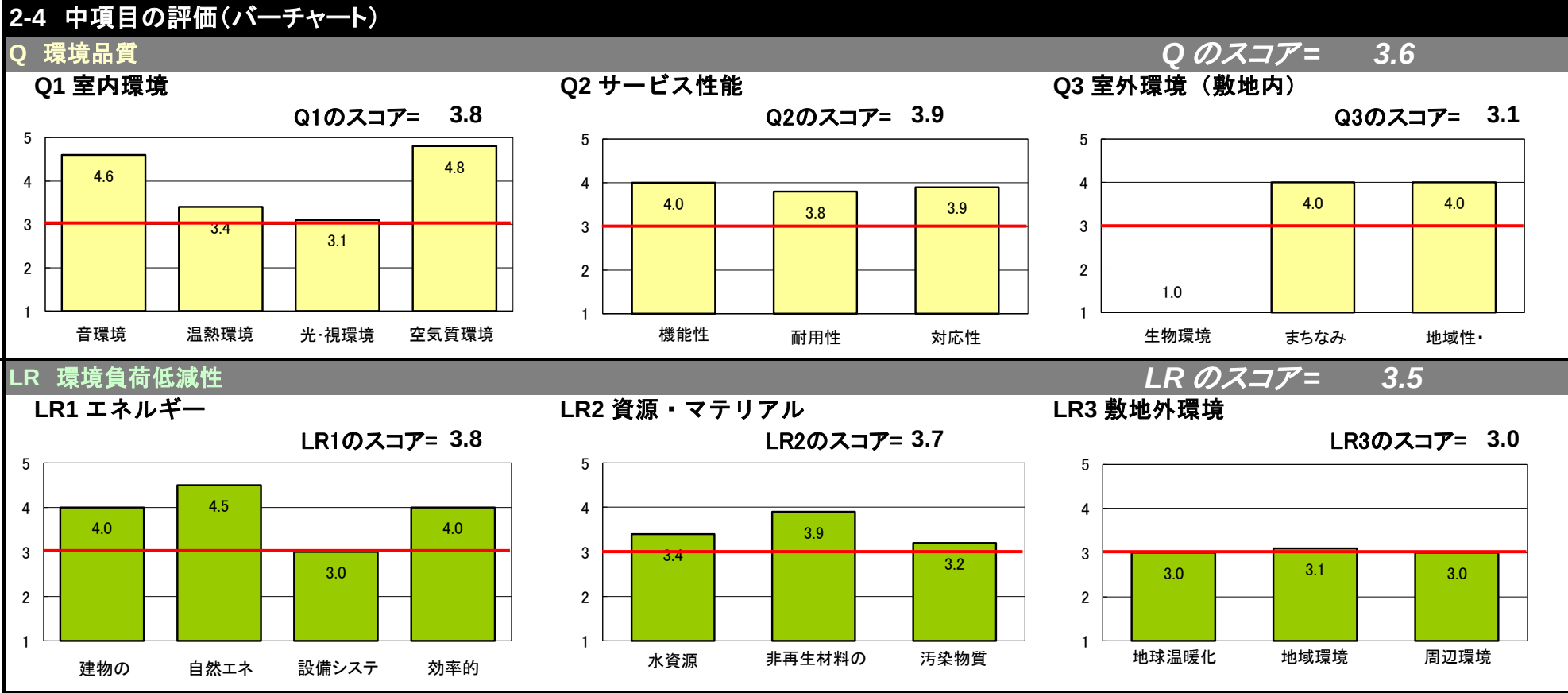
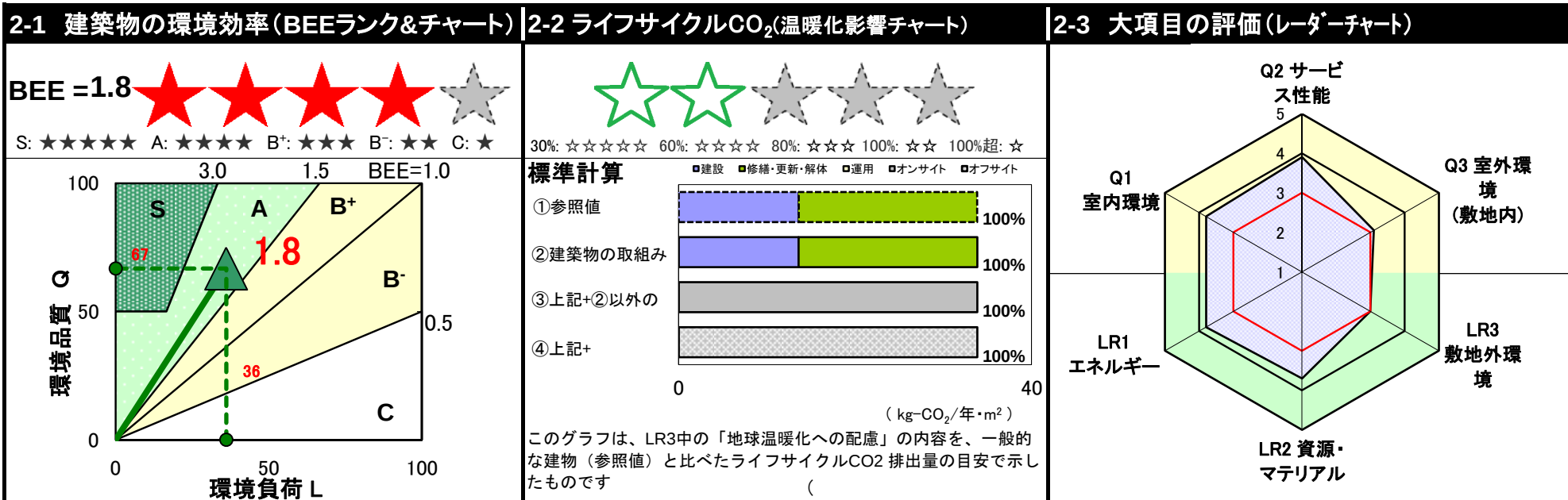
CASBEE®

熊本《新築》【評価結果】

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年追補版Ver.2（BPI/BEI対応） ■使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	NHK新熊本放送会館	階数	地上4F、地下1F
建設地	熊本県熊本市中央区花畑町5番1,2	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	150 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,000 時間/年
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年10月 予定	評価の実施日	2015年1月16日
敷地面積	2,646 m ²	作成者	谷田 要介
建築面積	1,616 m ²	確認日	2015年2月4日
延床面積	6,401 m ²	確認者	笠木 修



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。

【街に開いた放送会館】

熊本城や歩行者専用空間のシンボルプロムナード、周辺の公的施設との連携を生かして、賑わいを創出し、地域活性化へ貢献するとともに、地域に親しまれ開かれた放送局として、番組やイベントなどの地域の人たちが集い交流する場所を提供し、地域文化の発展、創造に貢献する交流拠点を目指す。

Q1 室内環境

注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・自然光を取り入れ執務室内部の照度を自動調光することで照明エネルギーを削減する。
- ・各機能毎に適切な、防音・遮音措置を行っている。

Q2 サービス性能

注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・両端コアの計画とし、執務スペースを最大限に確保する計画としている。
- ・明るく落ち着いた色彩の内装計画とし、快適な執務環境の創出を図っている。
- ・電源設備の強化や免震構造の採用による、地震に強い建物としている。
- ・機械室を4階にまとめることで、メンテナンス性と更新性に配慮している。

Q3 室外環境（敷地内）

注) 「Q3 室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・熊本城を中心とした市内の景観と調和する色彩・デザインとしている。
- ・公開ゾーンとなる西側低層部は透明性のあるデザインとし、街に賑わいを創出する。
- ・歩行者空間となる敷地西側道路沿いには、緑の傾斜面とベンチを配置し、歩行者の憩いのスペースを生み出している。

LR1 エネルギー

注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・自然光を取り入れ執務室内部の照度を自動調光することで照明エネルギーを削減する。
- ・自然エネルギーの有効活用として太陽光発電システムを設置する。
- ・空調外調機には全熱交換機を設置し、外気負荷の低減を行う。
- ・雑用水に井水を併用し、給水量の削減を行っている。

LR2 資源・マテリアル

注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・内装材に県産木材を用いたルーバーを設置し、林業への貢献と、炭素の固定化を図っている。

LR3 敷地外環境

注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・建物を免震構造としていることで、周囲に振動が伝わらない計画としている。
- ・周囲の交通に悪影響を与えないよう、交差点から離れた位置に車両出入り口を設置している。

その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPVBEI対応)		■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v		
NHK新熊本放送会館									
スコアシート			実施設計段階						
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									3.6
Q1 室内環境						0.40			3.8
1 音環境					4.6	0.15	-	-	4.6
1.1 騒音					5.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル		騒音計算の実施、消音機器の設置	5.0	1.00	3.0	-			
2 設備騒音対策			-	-	-	-			
1.2 遮音			4.6	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		T-2以上を確保	5.0	0.60	3.0	-			
2 界壁遮音性能		Dr-40を確保	4.0	0.40	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音			床、天井面に吸音材	4.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境					3.4	0.35	-	-	3.4
2.1 室温制御					3.0	0.50	-	-	
1 室温		ゾーンごとにVAV設置	2.0	0.38	3.0	-			
2 負荷変動・追従制御性			-	-	-	-			
3 外皮性能			3.0	0.25	3.0	-			
4 ゾーン別制御性			4.0	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御			-	-	-	-			
6 個別制御			-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮			-	-	-	-			
8 監視システム			-	-	-	-			
2.2 湿度制御			再熱除湿、加湿器による湿度制御	5.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式			高天井エリアに床吹出し空調を設置	3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境					3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 屋光利用					1.8	0.30	-	-	
1 屋光率			1.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口			-	-	3.0	-			
3 屋光利用設備			3.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策			3.0	0.30	-	-			
1 照明器具のグレア			-	-	-	-			
2 屋光制御			3.0	1.00	3.0	-			
3 映り込み対策			-	-	-	-			
3.3 照度			3.0	0.15	3.0	-			
3.4 照明制御			事務室部分 1スパンごとの調光、点滅制御単位	5.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境					4.8	0.25	-	-	4.8
4.1 発生源対策					5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		すべてF☆☆☆☆建材を使用している	5.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策			-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等			-	-	-	-			
4 レジオネラ対策			-	-	-	-			
4.2 換気			4.3	0.30	-	-			
1 換気量		一人当たり30m3/h以上	4.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能		外気冷房を採用	4.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮		配慮している	5.0	0.33	3.0	-			
4 給気計画			-	-	-	-			
4.3 運用管理			5.0	0.20	-	-			
1 CO2の監視		監視システム、及び、マニュアルを整備	5.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御		ビル内禁煙	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.9
1 機能性					4.0	0.40	-	-	4.0
1.1 機能性・使いやすさ					3.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		事務室部分 70VA／㎡程度	3.0	0.33	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応			4.0	0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画			3.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性			4.6	0.30	-	-			
1 広さ感・景観		事務室の天井高 2階:2.8m、3階:3m	4.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース		2階3階にリフレッシュスペース設置、2階は自販機コーナー併設	5.0	0.33	-	-			
3 内装計画		内装材に地元産の木材を利用、BIMを用いた内装検証	5.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理			4.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		ビニル床タイル、床シートの採用。外壁はフッ素樹脂塗装を採用。	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		4階に清掃員控室を設置。各トイレに掃除用具入れを設置	5.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務			-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性					3.8	0.31	-	-	3.8
2.1 耐震・免震					3.4	0.48	-	-	
1 耐震性		免震構造を採用	3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能			5.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数			3.7	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		耐久性の高い建材を使用 屋外等にステンレスダクトの採用 給水:塩ビライニング鋼管、排水:塩ビ管 空調機、空冷チラー、吸収式冷温水発生機	3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			5.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			5.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			4.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔			4.0	0.23	-	-			

	2.3 適切な更新			-	-	-	-	
	2.4 信頼性			5.0	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備	エネルギー二重化、耐震設置等	5.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	井水利用、排水貯留槽等	5.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	2回線受電、非常用発電機・UPS有り、電源設備は4階に設置	5.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	5.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	光メタルケーブル引込、異キャリア2系統引込。ラック室は3階。	5.0	0.20	-	-	
	3 対応性・更新性			3.9	0.29	-	-	3.9
	3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	
	1	階高のゆとり	地上部最小で4.7m	5.0	0.60	3.0	-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比0.1	4.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり		最小で3,600N/m ²	4.0	0.31	3.0	-	
	3.3 設備の更新性			3.4	0.38	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
	3	電気配線の更新性	EPS内にケーブルラック配線ルート確保	5.0	0.11	-	-	
	4	通信配線の更新性	EPS内にケーブルラック配線ルート確保	5.0	0.11	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
	1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
	2 まちなみ・景観への配慮		熊本城と調和したデザイン。景観審議会承認済み。	4.0	0.40	-	-	4.0
	3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	西側道路沿いにベンチを配した憩いの空間を創出	5.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
	LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
	LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
	1 建物の熱負荷抑制		PAL*削減率37%	4.0	0.30	-	-	4.0
	2 自然エネルギー利用			4.5	0.20	-	-	4.5
	2.1	自然エネルギーの直接利用	外気冷房	4.0	0.50	-	-	
	2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電10kW	5.0	0.50	-	-	
	3 設備システムの高効率化			3.0	0.30	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=13.8%	3.0		-	-	
	集合住宅の評価			3.0		-	-	
	4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
	4.1	モニタリング	主要な用途別エネルギー計量	4.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	運用基本方針	4.0	0.50	-	-	
	LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
	1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
	1.1	節水	節水型機器	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
	2 非再生性資源の使用量削減			3.9	0.63	-	-	3.9
	2.1 材料使用量の削減			3.0	0.07	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		高炉セメント(コンクリート)	5.0	0.20	-	-	
	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		高炉セメント	3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		内装材に地元使用している90%が熊本県産天然木	5.0	0.05	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		スケルトン・インフィルを明確化	5.0	0.24	-	-	
	3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	-	3.2
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.68	-	-	
	1	消火剤	窒素ガス消火	4.0	0.33	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
	LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
	1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
	2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.6	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
	3	交通負荷抑制	適切な広さの駐輪場、駐車場設置	5.0	0.33	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
	3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	0.33	-	-	
	2	振動		3.0	0.33	-	-	
	3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 **NHK新熊本放送会館**

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010_kmt2011(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		90.4
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				91.2	0.40	36.48
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				72.5	0.20	14.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	4.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				102.5	0.20	20.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	5.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				94.5	0.20	18.90
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.7	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数